

## 「全鍍連」 2022年 11月号 巻頭言

全鍍連 専務理事 長谷 尚武

「就任のご挨拶」



皆様、初めまして。7月1日付で全国鍍金工業組合連合会専務理事に就任しました長谷尚武（ながたに しょうぶ）でございます。

これまで、経済産業省で主に鉱山、採石、環境、エネルギー分野の業務を担当して参りました。特に環境分野では、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、騒音・振動規制法、悪臭防止法、環境影響評価法に関連する業務で、産業界の実態把握、規制官庁との調整業務に携わりました。

また、アフリカに縁があり、チュニジア2年、アルジェリア3年、コートジボワール3年の駐在経験があります。いずれもフランス語の国です。

直近のJETRO調査によれば、日本企業のアフリカへの進出は、南アフリカ共和国、ケニア、エジプト、ナイジェリアが上位の国となっています。これらの国は、市場規模や今後の経済成長が有望であり、英語によるコミュニケーションが可能な国です。

一方、仏語を話す国への進出は、モロッコがトップです。当該国には、地中海を隔てたヨーロッパ市場をターゲットに、日本の自動車メーカーやその部品メーカー等が進出しています。次に多いコートジボワールには、大手商社を中心に、サブサハラ地域のゲートウェイであるアビジャンに十数社の日本企業が駐在員事務所を構え、周辺諸国の情報を収集し事業を立ち上げるべく活動しています。

アフリカの白地図に示すとおり、フランス語を話す国は、アフリカ54か国のうち約半分の26か国であり、今後のアフリカの急激な人口増加（人口爆発）と中間層の需要拡大から、市場としては無視できない地域です。

国連推計によるとアフリカの人口は2050年には、現在から倍増の25億人となり、世界全体の4人に1人がアフリカ人になると言われています。特に顕著なのが、サハラ砂漠以南のサブサハラアフリカ（≒西アフリカ地域）です。

アフリカにおける日本製品（自動車、バイク、農業用機械等）需要の伸びや中国等アジアからの日本企業撤退を考慮すると、あと二十数年後の人口爆発までには、アフリカ



にシフトという選択肢もあり得ると考えます。

既に単独でアフリカに進出、失敗し同地域のビジネスから遠ざかってしまう日本企業の事例も聞きます。アジア地域とアフリカの圧倒的な違いは、旧宗主国のフランス官僚主義的な慣習がいまだにビジネスの世界に残っている点、これが言語の難解さとともに日本企業進出のハードルとなっているようです。そこで、後発先進となる日本は、既に現地に根付いている第3国企業をパートナーにすることがポイントとなります。例えば仏、印、トルコ、レバノン等です。

めっきの世界で「アフリカ」というキーワードはなじみが薄いと思いますが、ご参考までにご紹介しました。今後、至らない点多々あると思いますが、日本の電気めっき業界のために皆様のお力添えをいただきながら、ご期待に沿えるよう努力する所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。